



- A AIMR本館
- B AIMRラボ棟
- C AIMR別館 (アネックス棟)

- 徒歩にて
仙台駅西口より約15分。
- 地下鉄にて
地下鉄東西線仙台駅より八木山動物公園行に乗車。「青葉通一番町駅」(乗車時間2分、料金210円)南1出口から徒歩約10分。
地下鉄南北線仙台駅より富沢行に乗車。「五橋駅」(乗車時間2分、料金210円)北2・北4出口より徒歩約10分。
- タクシーにて
仙台駅西口1階よりタクシーに乗り、「東北大学片平キャンパス北門」まで約10分。
- バスにて
仙台駅西口バスプール11番乗り場より、「霊屋橋(おたまやばし)」経由の「八木山動物公園行、緑ヶ丘三丁目行、西高校入口行」のいずれかに乗車。「東北大学正門前」(乗車時間10分、料金190円)で下車。



〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
 東北大学材料科学高等研究所 (AIMR) 広報戦略室
 Tel. 022-217-6146 Mail. aimr-outreach@grp.tohoku.ac.jp

2026.04

AIMR

Advanced Institute for Materials Research, Tohoku University

Materials Physics

Mathematical Science

Non-equilibrium Materials



Devices/Systems

社会と世界に
つながる
先端材料科学



Soft Materials



社会と世界につながる先端材料科学

「材料」無くして私たちの社会は成り立ちません。金属・半導体・セラミックス・高分子などの様々な材料が、現代のエネルギー・情報通信・医療健康・高速移動などあらゆる技術分野で利用されており、多くの技術分野は高性能な材料の創製とともに発展してきたといえます。この材料創製を加速するためにも、学術的基盤としての「材料科学」を推進することは今後も不可欠です。

材料科学高等研究所 (AIMR) は、世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) の支援を受け、材料科学に加えて物理学・化学などの世界的研究者が集結して2007年に創設されました。その後、異なる材料系に共通な普遍原理を見出すべく新たに数学が加わり、「予見に基づく材料科学」を確立するなど、材料科学分野の発展に大きく貢献して参りました。2024年からは新たに「3フィールド×3トップ」戦略をスタートさせ、量子・スピン材料、ソフト・バイオ材料、エネルギー材料の3つの重点研究分野 (3フィールド) を設定、最先端のサイエンスはもとより、社会価値創出のためのイノベーション、さらには大胆な異分野融合を目指すフュージョン (3トップ) を推進しています。さらにこの3×3戦略を加速させるための「数学駆動リサーチアセット」として、ナノテラスとも連携した先端計測やAI・ロボティクスなどの高度利活用、そのための研究組織や研究インフラも拡充しています。

東北大学は2024年に国際卓越研究大学として正式認定され、個別の研究振興だけでなく、大学が世界と伍して成長軌道を

描くための様々なシステム改革にも主眼を置いた取り組みを進めています。そのなかで、「世界の研究者を惹きつける研究環境」や「全方位の国際化」などを中心に、AIMRが果たすべき役割はますます大きくなって参りました。具体的目標として掲げられている、海外からの研究者や女性・若手研究者、さらに国際対応力のあるスタッフなどの比率向上は、まさにAIMRが創設以来実践してきた取り組みであり、その経験を大学に還元することで全学的な国際化・研究力強化が実現できると確信します。国際卓越研究大学としての東北大学を先導しうる部局のひとつとして、これからも着実な歩みを進めて参ります。

研究分野や組織・国境を超えて果敢に挑戦を続け、【社会と世界につながる先端材料科学】を目指す材料科学高等研究所 (AIMR) に、今後ともご支援賜りますようどうぞよろしくお願い致します。

東北大学
材料科学高等研究所
(AIMR)

所長 折茂 慎一
Shin-ichi ORIMO



What's WPI 『WPI』について

世界には、スタンフォード大学のBio-X、マサチューセッツ工科大学 (MIT) のメディアラボなど、それぞれの分野において誰もが世界拠点と認めるような研究機関が存在します。このような世界拠点においては、次々に有能な人材が流入し、さらなる発展へとつながる、理想的なフィードバックが繰り返されています。

文部科学省は、このような世界トップレベルの研究拠点を形成することが今後の我が国の科学技術水準の維持・向上に不可欠であるとの認識から、2007年より「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI: World Premier International Research Center Initiative)」を開始しました。私たちAIMRは、WPIに採択され設立された拠点の1つです。WPIでは、世界最高水準の研究成果を日々生み出すことに加え、旧来の我が国の研究開発システムを改革し、国際水準の優れた研究環境と運営を実現することも目的のひとつとしています。AIMRでもグローバルな研究環境を実現するためのさまざまな改革を行い、それは大学等のホスト機関への良い波及効果も生みはじめています。

Overview of AIMR 概要

材料科学高等研究所 (AIMR) は、2007年に文部科学省プロジェクトであるWPI (世界トップレベル研究拠点プログラム) のもとに設立されました。創設以来、AIMRは、WPIの4つのミッション「世界最高レベルの研究水準」、「融合領域の創出」、「国際的な研究環境の実現」、「研究組織の改革」を推進し、

世界から優秀な研究者が集う材料科学研究拠点の形成を実現しました。2017年からは、WPIアカデミーのメンバーとして世界トップレベルの研究水準を維持しながら、国際頭脳循環の加速と拡大を推し進めています。

AIMRの
主な特徴

- 世界に先駆けた、研究所レベルでの材料科学と数学とのコラボレーション
- 研究者の50%以上を外国人が占める国際的な研究環境
- トップダウンマネジメントと事務手続きを含めたトータルな英語サポート
- 研究機材や研究費など、理想の研究環境の提供

研究者紹介 Research Groups

詳細はこちら
(<https://www.wpi-aimr.tohoku.ac.jp/jp/research/researcher/>)



材料物理グループ

Leader

佐藤 宇史

- トポロジカル絶縁体・半金属
- 高い転移温度を持つ非従来型超伝導体
- 数原子層の厚さからなる2次元物質



Gerrit E. W. Bauer

- 理論固体物理学
- スピントロニクスとフェロニクス
- ナノ磁性



Yong P. Chen

- 二次元材料(グラフェンを含む)
- トポロジカル量子物質
- スピントロニクス、磁性、超伝導



Mehrdad Elyasi

- 量子および非線形マグノニクス
- 磁気学およびスピントロニクス
- 多体開放量子システムおよび量子情報



幾原 雄一

東京大学

- 原子分解能走査透過電子顕微鏡法
- 結晶粒界・界面
- 粒界・界面幾何学



野村 悠祐

- 物性理論、量子多体論
- 計算物質科学
- 機械学習



小澤 知己

- 人工量子物質の物性理論
- 原子・分子・光物理における凝縮系物性
- トポロジカル物性とその普遍性



齊藤 英治

東京大学

- スピントロニクスの基礎物理学の研究
- スピントロニクスを利用したエネルギー変換
- スピントロニクスを利用した物質の量子力学的性質の研究



Qikun Xue

SUSTech/ 清華大学

- 二次元材料と超伝導
- ヘテロ接合
- 低エネルギー消費エレクトロニクス



非平衡材料グループ

A. Lindsay Greer

ケンブリッジ大学

- ガラス材料
- 相変化の速度論
- 画期的な機械的特性



加藤 俊顕

- 1次元・2次元材料の原子構造制御合成
- 集積量子デバイス
- 高透明・超軽量太陽電池



Hyoung Seop Kim

浦項工科大学校

- 高エントロピー合金
- 金属積層造形およびヘテロ構造
- 金属熱機械挙動のコンピューティングとAI



Dmitri Louzguine

- 液体構造、フラジリティ、結晶化
- 構造若返り
- 超高強度およびバイオマテリアル



ソフトマテリアルグループ

Leader

阿尻 雅文

- 超臨界水反応による新材料合成
- 低温で高い酸素貯蔵能を示すナノ触媒
- ナノ材料のプロセスサイエンスの構築



平野 愛弓

- 細胞膜を模倣したセンサ
- 神経細胞ネットワークの再構成
- ナノとバイオを融合したデバイス



小田 玲子

CNRS/ ボルドー大学

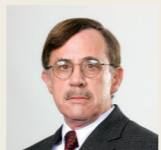
- キラリティ
- コロイド科学
- 階層的ナノ構造、ナノマテリアル



Thomas P. Russell

マサチューセッツ大学

- 界面組織化
- 構造性液体
- リンクル



瀧宮 和男

- 有機半導体
- エネルギーデバイス
- 分子結晶制御



デバイス・システムグループ

Leader

水上 成美

- 合金・化合物からなる次世代スピンドデバイス
- パルス光を用いたスピンドダイナミクスの計測
- テラヘルツ波を用いたスピントロニクス



深見 俊輔

- 高機能スピントロニクス材料・デバイス
- 磁化の電氣的制御とそのデバイス応用
- スピントロニクス新概念コンピューティング



Michael Hirscher

マックス・プランク
固体研究所

- 水素貯蔵
- 多孔質材料
- 水素同位体分離



柿沼 洋

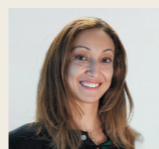
- 腐食科学と電気化学
- 水素脆化と構造材料
- 機械学習



Rana Mohtadi

トヨタ北米先端研究所

- エネルギー貯蔵と水素
- 次世代電池
- エネルギー変換



西原 洋知

- 単層グラフェンから成るナノ多孔体
- スポンジのように柔軟な多孔体
- エネルギー貯蔵・変換



折茂 慎一

- 水素科学
- 高密度水素吸蔵・吸着材料
- 錯体水素化物の超イオン伝導および超伝導



大塚 朋廣

- 量子デバイス
- 半導体・ナノ構造
- 固体物理・低温物性



須藤 祐司

- 相変態を利用したスマート材料
- 多形変化を用いた揮発性メモリ
- 軽くて高機能な金属材料



Magda Titirici

インベリアル・
カレッジ・ロンドン

- 水熱炭化処理
- 電界紡糸法
- 持続可能なエネルギーのための材料



藪 浩

- バイオミメティック高分子材料
- 自己組織化によるナノ構造微粒子
- エネルギーデバイス用有機系電気化学触媒



山内 美穂

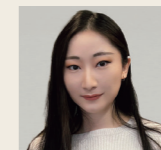
九州大学

- 機能性無機ナノ材料
- 無機ナノ材料の水素誘起物性
- 高効率物質変換システム



Xiao Zhang

- 炭素系材料と発光材料
- エネルギーと燃料
- 触媒作用



数学連携グループ

Leader

水藤 寛

- 現象解析のための数値モデリング
- 数値シミュレーションと可視化技術
- 異なる物理現象をつなぐ連成解析



安東 弘泰

- 環境予測計算の数値
- IoT車両情報のデータ解析
- エネルギーとモビリティの連携



千葉 逸人

- 無限次元力学系とその応用
- 同期現象
- 時間遅れをもつ微分方程式



井上 和俊

- 粒界と転位の幾何学
- 結晶界面解析
- 非線形弾塑性論



小谷 元子

理化学研究所

- 離散幾何解析学
- トポロジカル位相
- 多重スケール解析



Hao Li

- 触媒とその材料理論
- 材料設計のためのデータサイエンス
- 計算法論の開発



Chris J. Pickard

ケンブリッジ大学

- 構造予測
- 密度汎関数理論
- 界面と粒界



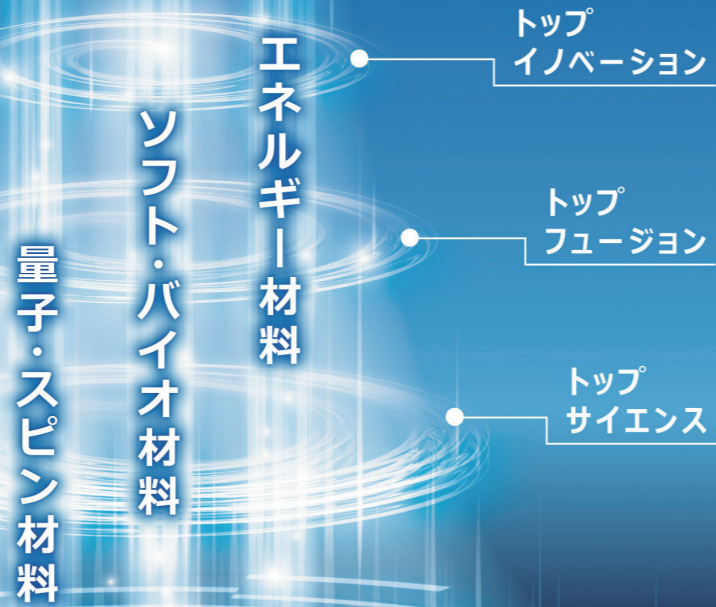
3 Fields × 3 Tops Strategy

3フィールド×3トップ戦略

AIMRは、材料科学の学理の革新、あるいは新しい機能性材料の創出や新規デバイスの開発を通して、安全で豊かな生活の基盤を構築し社会に貢献することを目指しています。このゴールに向かってAIMRは、量子・スピン材料、ソフト・バイオ材料、エネルギー材料の3つを重点研究分野に据え、各分野(フィールド)において、トップサイエンス、トップフュージョン、トップイノベーションとして3つのトップレベル研究を行う「3フィールド×3トップ」戦略のもとで研究を展開しています。トップサイエンスでは、学理における世界最先端を追求します。トップフュージョンでは、その最先端の学理を分野横断的に融合させることにより、革新的な学理の創出を目指します。トップイノベーションでは、生み出された革新的学理をスタートアップ並びに産学連携に結実させることで、社会課題の解決を目指します。各フィールドにおける研究戦略は次ページの通りです。

社会と世界につながる先端材料科学

3 Fields
×
3 Tops



数学駆動リサーチアセット

先端計測

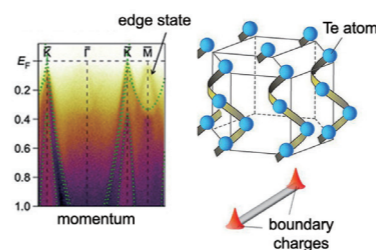
計算科学

データ科学

量子・スピン材料

フィールド

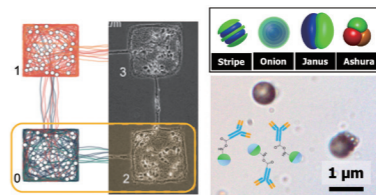
トポロジカル相やスピンドYNAMICSに関する新しい理論的枠組みを編み出し、角度分解光電子分光 (ARPES) に代表される先端計測技術を駆使して実証する。新しい量子スピン材料の探索や低次元/積層構造の精密な制御を通して、高効率かつ革新的な次世代の電子・磁気デバイスを創成する。



ソフト・バイオ材料

フィールド

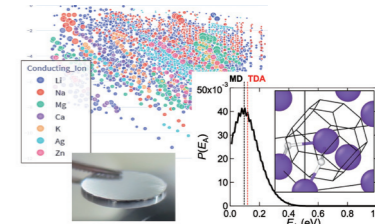
数学と協働し、自己組織化高分子や培養神経細胞が作る階層構造からウイルス検出やバイオコンピューティングといった機能を実現するための指導原理を得る。キラル材料、有機半導体、金属酸化物微粒子系に見られる複雑な相互作用を階層横断的に理解し、新奇な応答性を示す材料群を開拓する。



エネルギー材料

フィールド

マルチモーダルなデータ同化による材料探索や数学的なデータ解析によるイオンダイナミクス解析で、軽元素主体の電気化学触媒や固体電解質の精密制御を実現する。界面・曲面の数学を用いた3次元炭素電極の開発とも併せ、低炭素社会に向けた新エネルギーデバイスの基礎科学を展開する。



数学駆動リサーチアセット

この「3フィールド×3トップ」戦略を可能にするのが「数学駆動リサーチアセット」です。AIMRにおいて数学は、その抽象化力によって材料科学内の異分野同士を、あるいは材料科学と社会を繋ぐ触媒として機能してきました。こうした数学の役割をデータ獲得・提供・分析の面から補強するのが先端計測、計算科学、データ科学です。

AIMRでは数学者と材料科学者たちがアンダーワンルーフで化学反応を起こしながら、先端材料科学をリードしていきます。




International Collaborations

国際連携


サテライト・連携機関

AIMRでは、海外の研究機関と複合分野間で双方向の交流を行うために、4つの研究機関と海外サテライトとしての協定を結んでいます。さらに、海外PI及び海外連携教授とのネットワークを生かし、海外の第一線級の研究機関とパートナーシップを形成し、材料科学に関する国際共同研究を推進するため、9の海外連携機関があります。






■ ケンブリッジ大学(サテライト)



■ シカゴ大学(サテライト)

■ カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)


■ マサチューセッツ大学アマースト校




■ 清華大学(サテライト)

■ 浦項工科大学校(POSTECH)


■ 南方科技大学(SUSTech)




■ スイス連邦材料科学技術研究所 (Empa) (サテライト)




■ ノッティンガム大学




■ インペリアル・カレッジ・ロンドン



■ マックス・プランク固体研究所



■ フランス国立科学研究センター (CNRS)



■ ボルドー大学

Fusion Research & Tea Time

融合研究/ティータイム

融合研究 (Fusion Research) の推進

融合研究の促進は、AIMRの重要なテーマのひとつです。既存の研究分野にとらわれることなく研究を進めるために、以下の取り組みを行っています。



AIMR Fusion Research Proposal

毎年、AIMRの研究者がAIMR内における融合研究のプロジェクトを提案します。研究所長、研究支援部門長、各グループリーダーによる審査を基に、研究所長が採否を決定し、採用するプロジェクトへ研究資金を提供します。

Friday Tea Time

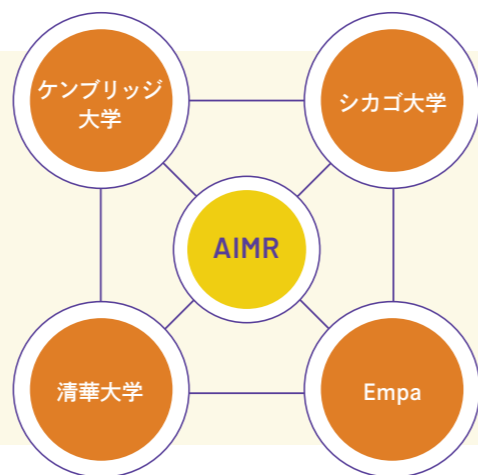
毎週金曜日にティータイムを開催しています。リラックスした雰囲気の中で、コーヒーを片手に語り合うことで、メンバーのコミュニケーション促進を図っています。何気ない会話から研究者同士の化学反応や融合が生まれ、新たな研究に繋がるのが期待されます。

AIMRセミナー

AIMR所属の研究者やAIMRを訪問中の研究者に、材料科学から数学にいたる幅広い分野についてホットな話題を提供いただけます。自分の研究の枠を越えてお互いの研究を知ること、その後のコミュニケーションや議論へ繋がることを狙っています。

AIMRジョイントリサーチセンター

AIMRの研究者が現地で研究を行えるスペース「AIMRジョイントリサーチセンター」を設置することで、欧州・北米・アジアの各地域で材料科学をリードする研究機関と、特に重点的な共同研究を行える体制を整えています。



Top Innovation based on Basic Science

基礎科学に基づく産学連携

AIMRでは、産学連携の一環として国内外の様々な研究機関や企業等との共同研究や受託研究を積極的に行っています。

下記はこれまでの実施状況の一例です。

蓄電池産業



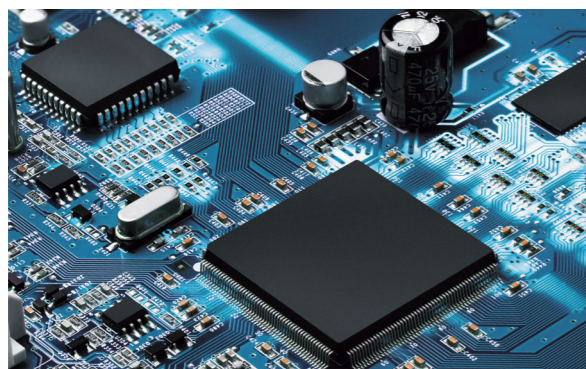
- Li空気電池正極材料
- 全固体電池用多成分物質の合成プロセス

水素産業



- 金属系高密度水素貯蔵材料
- CO₂排出削減 水素併産 新規化学プロセス

半導体・情報通信産業



- 磁気抵抗不揮発性メモリ用新材料と計測技術
- 人工次元とトポロジカルエッジ状態を用いた光集積回路

資源循環関連産業



- ナノ多孔材料による自然冷媒を利用した高効率ヒートポンプ
- 炭化水素の低温改質によるケミカルルーピングプロセス

共創研究所

大学内に企業との連携拠点を設けるとともに、大学の教員・知見・設備等に対する部局横断的なアクセスを可能とすることで、共同研究の企画・推進、人材育成、および大学発ベンチャーとの連携をはじめとする多様な連携活動を促進することを目的としています。



住友金属鉱山×東北大学 GX材料科学共創研究所



AZUL Energy×東北大学 バイオ創発GX共創研究所

オープンイノベーションセンター

これまで築いてきた各分野の研究実績を産業分野に応用・拡大していくことを目的として、AIMR内にオープンイノベーションセンターを設置しています。



数理科学 オープンイノベーションセンター

最先端の数理科学の産業分野への活用に関しては数理科学オープンイノベーションセンターにお問い合わせください。

AIMR 数理科学 🔍 検索

<https://www.wpi-aimr.tohoku.ac.jp/cmsoi/>



水素科学GX オープンイノベーションセンター

水素科学やそれに関係するGX関連研究の産業分野への活用に関しては水素科学GXオープンイノベーションセンターにお問い合わせください。

AIMR 水素科学 🔍 検索

<https://www.wpi-aimr.tohoku.ac.jp/oic-hydrogen/>



東北大学の研究シーズ検索や研究者との連携を希望される場合は、東北大学産学連携機構・総合連携推進部へお問い合わせください。

東北大学 RPIP 🔍 検索

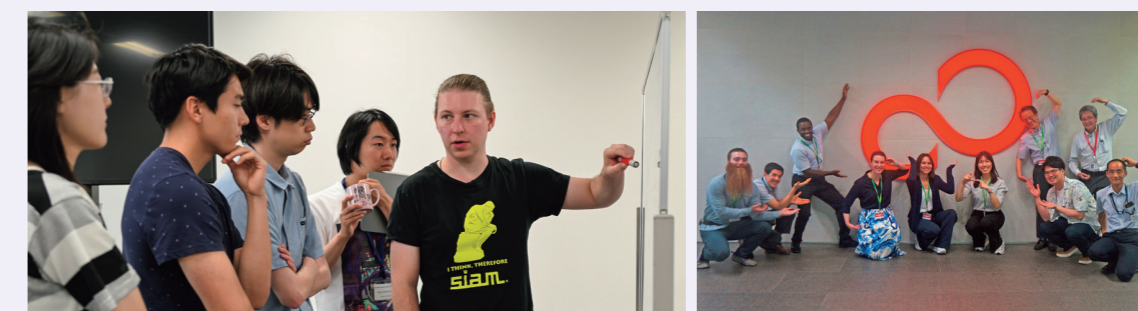
<https://www.rpip.tohoku.ac.jp/jp/>



G-RIPS (Graduate-level Research in Industrial Projects for Students) Sendai

AIMRでは、G-RIPS (Graduate-level Research in Industrial Projects for Students) Sendai プログラムを開催しています。このプログラムは米国UCLAのIPAM (Institute for Pure & Applied Mathematics) で2001年から行われているRIPSプログラムに倣ったものです。日本ではAIMRを会場として2018年度から開催しており、これまでに、トヨタ自動車株式会社、富士通株式会社、日本電気株式

会社、三菱電機株式会社、株式会社IHIなどがパートナー企業として参加しています。このプログラムは日本と海外の数学系大学院生がグループを組み、パートナー企業から提供された課題に8週間にわたって集中して取り組み、解決に至る道筋を学ぶもので、国際インターンシッププログラムのひとつです。参加学生と企業の双方から高い評価を受けています。

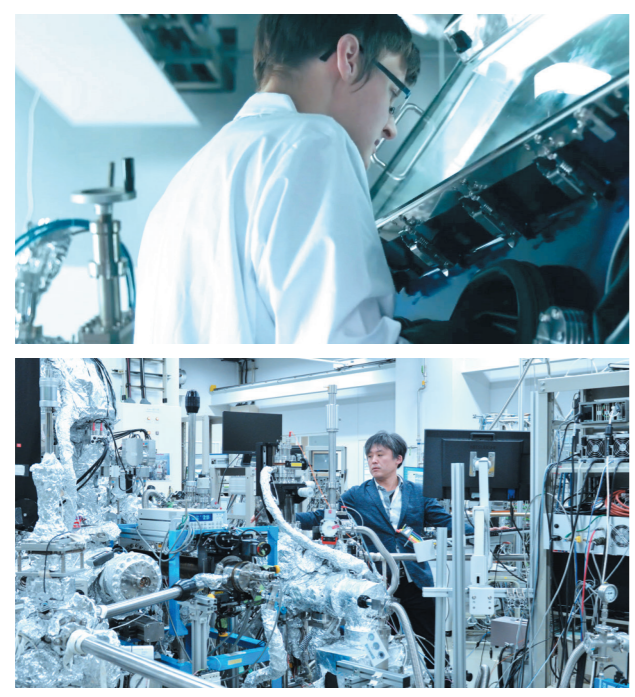


Support System

サポート体制

世界水準の研究環境と支援体制

AIMRでは、研究者が世界トップレベルの研究設備や装置を利用して各々の研究に専念できるよう、研究支援部門による充実したサポートが受けられる体制を整えています。また、40歳以下の若手研究者が全体の半数以上を占めていることもあり、その活躍を後押しするべくさまざまな制度を整え、支援を強化しています。



外国人研究者のための支援

研究支援部門では、外国人研究者のための来日に必要な各種手続きのほか、ご家族も参加いただける日本語講座やオリエンテーションの開催、レンタルグッズ貸出など独自の支援を展開しています。AIMR本館横には、外国人研究者用の宿泊施設があり受入環境も充実しています。また、公用語を英語としており、国際水準の研究環境が整備されています。



共通機器室

専任のテクニカルコーディネーターが、共通機器の管理や研究技術支援を行います。また、学内、学外の研究機関と共同利用実験装置に関するネットワークを構築し、研究者からの要望に応じて、研究所に設置されていない装置でも利用できるようコーディネートを行います。

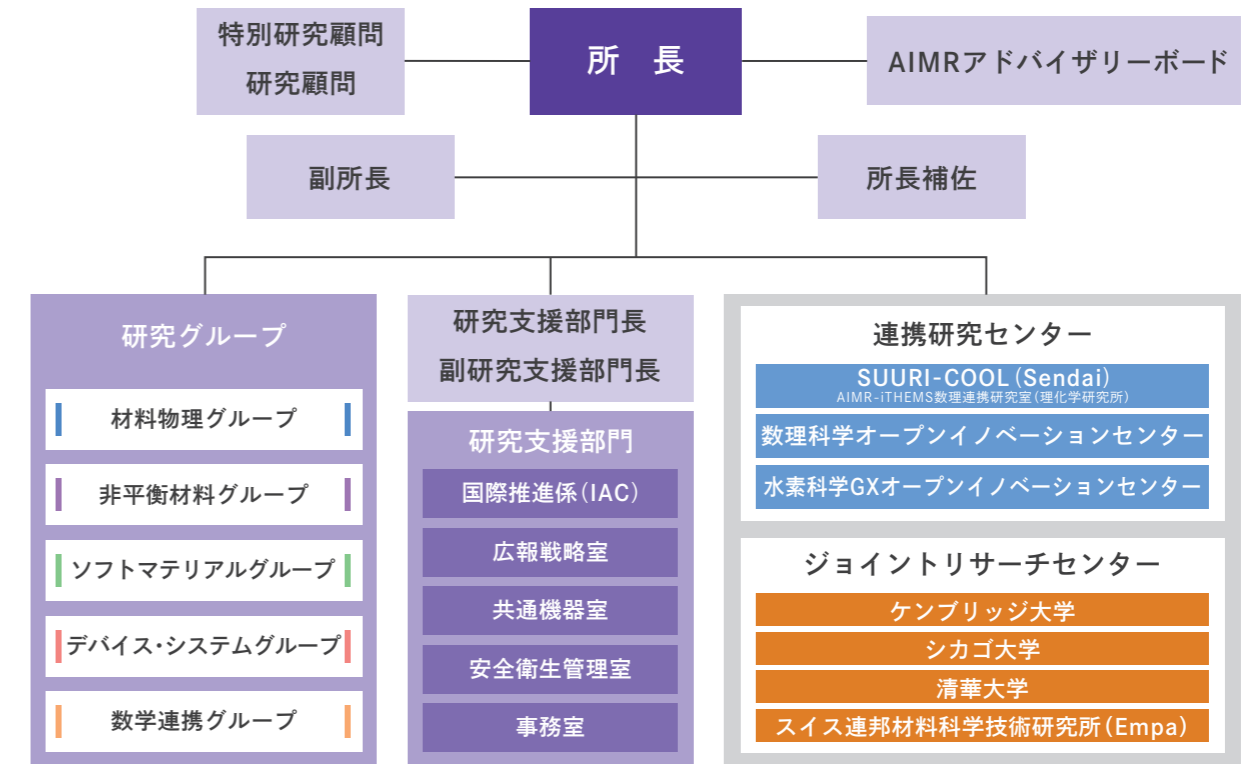
主な装置

- 電界放出形走査電子顕微鏡 (FE-SEM); JEOL, JSM-7800F
- スパッタ装置; ULVAC, QAM-4-S
- 顕微レーザー分光装置; HORIBA, LabRAM HR-800
- 熱分析装置; RIGAKU, Thermo plus Evolv
- X線回折装置 (XRD); RIGAKU, SmartLab 9MTP
- X線回折装置 (Laue Camera); RIGAKU, RASCO 3M 等



Organization

運営体制



特別研究顧問 / 研究顧問

特別研究顧問



小谷 元子

東北大学 理事 (非常勤)
(研究国際戦略・展開担当)

研究顧問



塚田 捷

研究顧問



西浦 廉政

AIMRアドバイザリーボード

苗字のアルファベット順に掲載



前川 禎通 チェア

■ 理化学研究所 創発物性科学研究センター 客員主幹研究員
■ 東北大学 名誉教授



Giulia Galli

■ シカゴ大学 分子工学ブリックコースchool 教授



後藤 雅宏

■ 九州大学大学院 工学研究院応用化学部門 教授
■ 次世代経皮吸収研究センター長



森 初果

■ 東京理科大学 研究推進機構総合研究院 院長/教授



若山 正人

■ ZEN大学 学長




Andreas Züttel

■ スイス連邦工科大学 ローザンヌ校 (EPFL) 教授
■ 再生可能エネルギー材料研究所 所長

PR & Outreach Activities

広報・アウトリーチ活動

AIMRがトップレベルの研究機関として世界的に認知されるよう、様々な情報を発信しています。ウェブサイトのほか、Facebook、X(旧Twitter)、LinkedInを通じて、最新の研究成果をはじめ、研究所の動向、公募や受賞情報など幅広いトピックを日英両言語でご紹介しています。定期的に配信しているコンテンツ「AIMResearch」は、AIMRの研究者が発表する論文のなかから特に卓越したものについて、論文とは違う視点からご紹介するものです。

 <https://www.wpi-aimr.tohoku.ac.jp/jp/>

 <https://www.facebook.com/TohokuUniversity.AIMR>

 <https://x.com/tohokuunivaimr>

 <https://www.linkedin.com/company/wpi-aimr-tohoku-univ/>



また、一般市民の方々とのコミュニケーションや相互理解を促すために、様々なアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいます。文部科学省および他のWPI拠点と合同で各種イベントを開催し、中学生や一般層に先端科学を身近に感じてもらえる機会を提供するとともに、理数科の高等学校等による施設見学も受け入れています。

